

## 不登校児童生徒への対応研究部 研究報告（概要）

### 研究主題

市内小中学校の児童生徒不登校ゼロを目指した校内支援体制及び未然防止の取組について

### 概要説明

本研究部では、不登校問題に対して校内支援体制と未然防止の取組との2つを柱に研究を進める。2年目となる今年度は、小中連携を視野に入れた未然防止の取組として、以下の2点について報告する。

- ① 児童生徒の社会的スキルを育成するためのプログラム「ソーシャル・スキル・トレーニング」(以下SST)の授業を実施、その効果の検証。
- ② 不登校対応マニュアルの作成。

### 本研究の<キーワード>

- すぐに実践できるソーシャル・スキル・トレーニング (SST)  
○ターゲット児童の変容 ○不登校対応マニュアル ○小中連携 ○欠席への早期対応

## I 研究主題

市内小中学校の児童生徒不登校ゼロを目指した校内支援体制及び未然防止の取組について

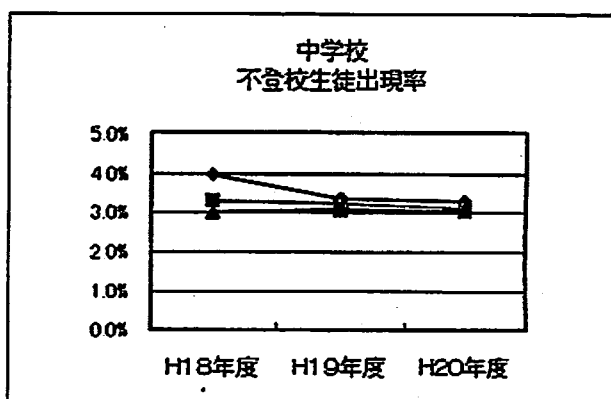
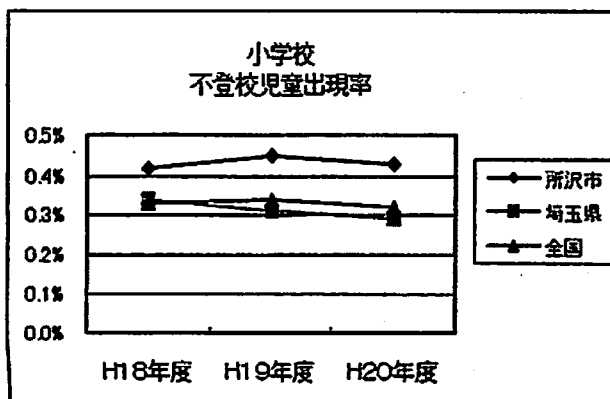
## II 主題設定の理由

### 1 不登校の定義

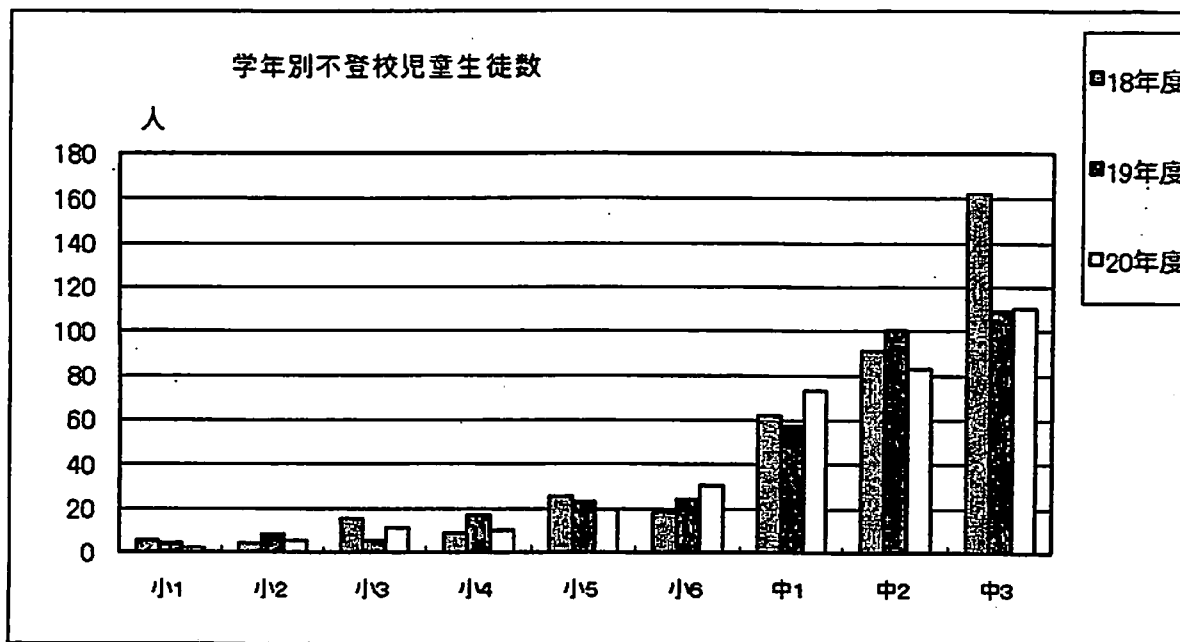
文部科学省では、「不登校児童生徒」とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義している。

### 2 所沢市の不登校の現状

所沢市では、小学校の出現率（全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合）が、全国よりも高い上にこの3年間は横ばい状態である。中学校の不登校出現率は18年度から19年度連続で下がったものの、依然全国平均を上回っている。



|      | 小1 | 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2  | 中3  |
|------|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| 18年度 | 5  | 4  | 15 | 9  | 25 | 18 | 62 | 91  | 162 |
| 19年度 | 4  | 8  | 5  | 17 | 23 | 24 | 57 | 100 | 109 |
| 20年度 | 2  | 5  | 11 | 10 | 19 | 30 | 73 | 83  | 110 |



学年別でみると、やはり中学校1年の不登校生徒数は小学6年の約2倍以上となっている。いわゆる「中1ギャップ」の問題である。これについては、前年度の研究報告でも述べたように、中学校1年生で不登校となっている生徒の半数は、小学校時に不登校相当の経験があったことなどがわかっている。(国立教育政策研究所生徒指導研究センター, 2003) その意味では、不登校は中学校で増加するというわけではなく、小学校で潜在的にあった問題が中学校になって不登校という形で顕在化すると考え、学区内の小学校と中学校が緊密に連携して取り組むことが重要となる。

一方で、不登校の要因や背景が一つに特定できないことも明らかになっている。不登校を画一的に捉えるのではなく、児童生徒の個別の事情に応じて丁寧に対応していく必要がある。そのためにも担任が一人で取り組むのではなく、学年や学校としての体制の整備が不可欠となる。

そして何よりもなすべきことは、未然防止の取組であるという点から本主題を設定した。

### III 研究の内容及び方法

#### 1 ソーシャル・スキルの授業研究

児童生徒の不登校の要因は、さまざまである。その一つに友達との人間関係づくりがうまくできないことが考えられる。友達の気持ちがよく理解できなかったり、自分の思いがよく伝えられなかったりすることにストレスを感じる児童生徒も少なくない。友達との関係がよく築けない原因として、本研究部では、ソーシャル・スキルの獲得不足があるのではないかと考えた。

そこで、ソーシャル・スキルを学ぶ場として、今年度は、小学校第5学年、第6学年において、SSTの授業研究を行うことにした。授業を通して適切なソーシャル・スキルを獲得すれば、それを活用して児童生徒は良好な人間関係をつくることができるであろう。良好な人間関係をつくること、不登校予防につながると考えたのである。

(1) ソーシャル・スキルとは

人間は、本来、集団を作り他人とかかわって生活しようとする、本質的性質・傾向をもっている。「社会性」といわれるものである。これは、生後に学び覚えた後天的なもので、変化しやすいものである。この「社会性」を高めるために必要なものが『良好な人間関係をつくり、保つための知識や具体的な技術やコツ』であり、これを「ソーシャル・スキル」と呼ぶ。

(2) SSTに求められるもの

SSTに求められる基本的な要素は、4つあり、そのために必要な12の基本スキルがある。以下、要素と必要なスキルをまとめておく。今年度の授業実践においてもこの12のスキルの中から、学級の実態に合わせてスキルを選び、SSTを行った。

| 基本的な要素          | 基本スキル                                     |
|-----------------|---|
| 人間関係についての基本的な知識 | ①あいさつ ②自己紹介 ③上手な聴き方 ④質問する                 |
| 他者の思考と感情の理解のしかた | ⑤仲間の誘い方 ⑥仲間の入り方 ⑦あたたかい言葉かけ ⑧気持ちをわかって働きかける |
| 自分の思考と感情の伝え方    | ⑨やさしい頼み方 ⑩上手な断り方 ⑪自分を大切にす                 |
| 人間関係の問題を解決する方法  | ⑫トラブルの解決策を考える                             |

(3) SSTの手順

ここでは、SSTの手順を紹介する。今回の授業もこの手順で行った。まず、アセスメントを行い、それをもとにスキルを決定し、SSTを実施した。実施後、検証するとともに、その結果から、次のスキルを決定し、次なるSSTを実施した。

今回小学校第5学年においては、この手順に従って、4回のSSTと4回の尺度の測定を実施した。第6学年においては、2回のSSTと2回の尺度の測定を実施した。アセスメントには、埼玉県立総合教育センター平成18年度調査研究報告書「ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)に関する指導プログラムの開発」で紹介されている「ソーシャル・スキル尺度(以下SS尺度)」【資料1】を使用した。また、SSTの指導計画も、この調査研究報告書を参考に作成した。

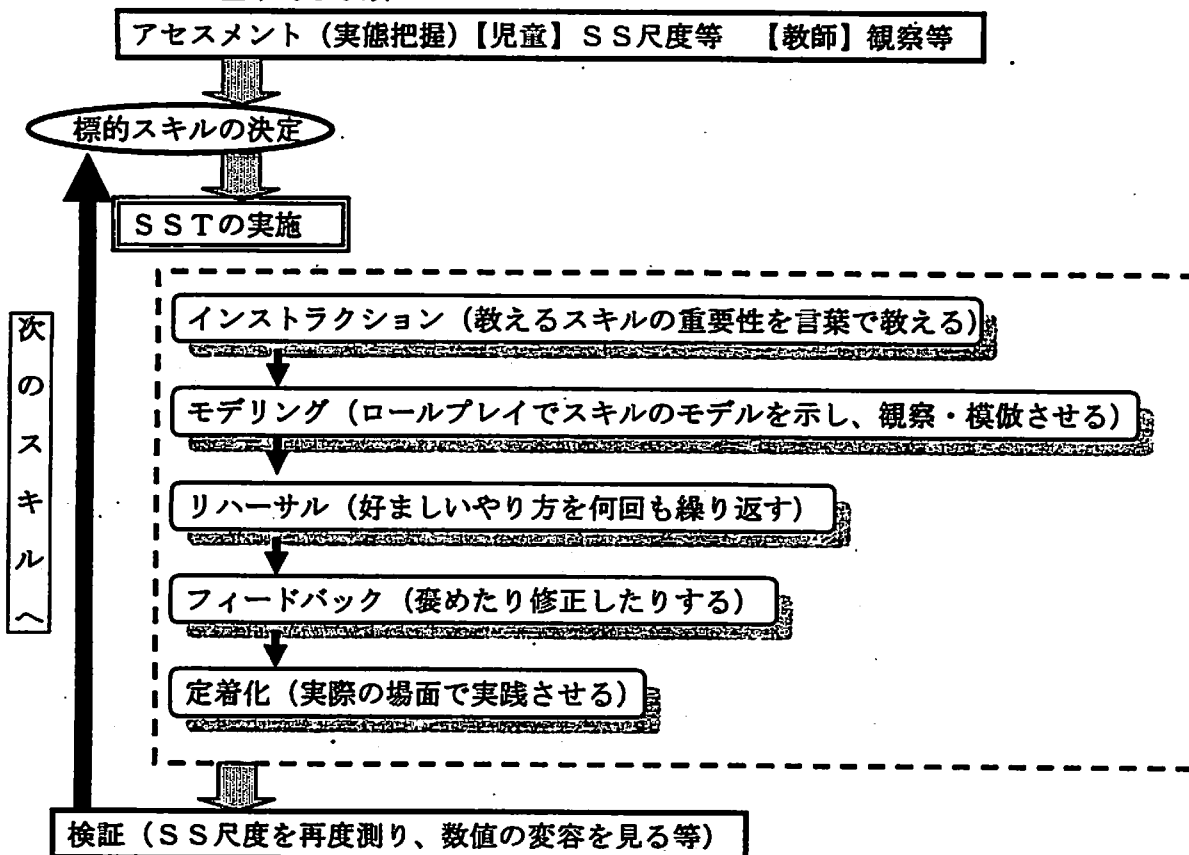
(4) ターゲット児童の変容を見る意義

SSTの授業実践にあたり、今年度は、予め、数人の児童をターゲット児童として抽出し、その児童の変容を追った。SS尺度の数値が低く、ソーシャル・スキルの獲得が十分でないと思われる児童や、欠席数の多い児童を選んだ。こうした児童は、不登校の可能性が高いと考えたからである。具体的な数値については、授業実践の中で紹介している。

学級全体の平均からSS尺度の変容を見ていくと、数値の高い児童の実態でまとめら

れてしまい、数値の低い、スキルの獲得が最も必要なターゲット児童の実態や変容が見過ごされてしまうおそれがある。そこで、学級全体を見るとともに、ターゲット児童の授業中の様子やSS尺度の数値の変容に注目した。ターゲット児童が、授業の中で楽しくリハーサルを行ったり、スキルを多く獲得したりしていくことは、本人はもちろんのこと、学級全体の人間関係づくりにもよい影響を与え、不登校予防に効果があると考えたからである。

#### < SSTの基本的な手順 >



#### (5) SSTを行う際の留意点

SSTを行う際には、次の点に留意し、適切なスキルで、より効果的に進めることが大切であると言われている。今回の授業実践でも、常に心がけるようにした。

- ・アセスメントをして、児童・生徒の実態に合ったスキルを選ぶ。
- ・学級の人間関係が良好な時に楽しい雰囲気で行う。
- ・学習のねらいをきちんとおさえ、その時間に扱うスキルの必要性を理解させる。
- ・スキルの定着が図れるように、適切な評価をする。

## 2 不登校対応マニュアルの作成

不登校問題の解決には、「児童生徒の欠席」に教職員が「敏感に動く」ことが大切である。

(小林正幸 2005)

前年度の研究では、小中連携を視野に入れた個別支援票を提案した。その中で、「月3日の欠席」で不登校支援カードを作成することとした。それは、教師に欠席を敏感に意識させるねらいがあった。

今年度は、不登校に対しての校内体制の取組のマニュアルを提案する。

欠席に対応する教職員の動きは、小学校内の教職員でも、「電話をする」「欠席カードを届ける」など教員によって違い、学校内で統一した対応をしていないことが多い。それは、中学校でも同じである。さらには、欠席カードを届けることが多い小学校に対して、中学校ではほとんど実施していない。ここにも小中間のギャップがみられる。

そこで、欠席の対応マニュアルを作成し、小中間において同じような対応をすることによって、校内や小中間の教職員の不登校防止の共通理解が図られるのではないかと考えた。

その内容は、欠席1日目からの対応を具体的に示し、電話する内容もせりふで示すなど、わかりやすく、すぐ使える行動マニュアルになるように作成した。

### 3 研究の経過

平成21年 5月15日(金) 第1回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年 5月21日(木) 第2回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年 6月 3日(水) 第3回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年 6月18日(木) 第4回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年 7月 4日(土) 第1回授業研究 【会場】所沢市立明峰小学校

【内容】第5学年 「あたたかい言葉かけ」

授業者 担任と少人数担当教諭とのTT

平成21年 7月31日(金) 第5回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年 8月18日(火) 第6回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年 9月29日(火) 第2回授業研究 【会場】所沢市立明峰小学校

【内容】第5学年 「共感」

授業者 担任と少人数担当教諭とのTT

平成21年10月14日(金) 第7回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年10月28日(金) 第3回授業研究 【会場】所沢市立西富小学校

【内容】第6学年 「やさしい頼み方」

授業者 担任と同学年担当教諭とのTT

平成21年11月26日(金) 第8回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年12月 7日(月) 第4回授業研究 【会場】所沢市立明峰小学校

【内容】第5学年 「やさしいたのみ方」

授業者 担任と少人数担当教諭とのTT

平成21年12月 8日(火) 第9回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成21年12月11日(金) 第5回授業研究 【会場】所沢市立明峰小学校

【内容】第5学年 「上手なことわり方」

授業者 担任と少人数担当教諭とのTT

平成21年12月18日(金) 第10回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

平成22年 1月 6日(水) 第11回研究協議 【会場】所沢市立教育センター

## IV 実践例

### 1 小学校第5学年におけるSSTの授業実践

#### (1) アセスメント(実態把握)

6月22日に、1回目のアセスメントを行い、SS尺度により、児童のスキルの獲得状況を把握した。この尺度では、スキルを把握するための観点として「配慮」(相手の状況を理解し、気配りするスキル)と「主張」(自らのことを正しく伝えるためのスキル)の2つを用いている。それぞれ8項目、計16項目からなり、児童が5段階で自己評価し、得点化する。「配慮」「主張」とも、8点から40点までの範囲になる。

学級全体を見ると、SS尺度は、配慮が30.9、主張が31.3であった。わずかではあるが、主張の平均点が高いことが分かった。

次に、学級の児童の1年次から今までの欠席数を洗い出し、各児童のSS尺度と欠席数との関係を見た。その関係の中から、SS尺度が低い、または配慮と主張のバランスが悪い児童や欠席数が多い児童をターゲット児童として選び出した。欠席数は、年間3日以上が連続している場合を多いとした。

#### (2) 実践したスキルと変容

やや主張の平均点が高い学級全体の様子から、「指導プログラム」で紹介されている『「配慮」「主張」のバランスとプログラム』【資料2】を参考に7月4日に「あたたかい言葉かけ」の授業を行い、2週間後に2回目のSS尺度を測定した。9月29日には、「共感」のスキルを授業で実施した。授業から2週間後に3回目のSS尺度を測定した。12月7日には「やさしいのみ方」、12月11日には「上手なことわり方」の授業実践を行い、その後、4回目SS尺度を測定した。以下は、その結果である。ターゲット児童は、上述(1)のアセスメントで選んだ児童である。

| ターゲット児童 | SS尺度 |     |     |     |     |     |     |     | 欠席数 |    |    |    |    |
|---------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
|         | 配慮   |     |     |     | 主張  |     |     |     | 1年  | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|         | 1回目  | 2回目 | 3回目 | 4回目 | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 |     |    |    |    |    |
| A男      | 31   | 28  | 33  | 32  | 29  | 30  | 30  | 33  | 9   | 14 | 16 | 15 | 5  |
| B男      | 27   | 26  | 24  | 30  | 29  | 25  | 25  | 30  | 9   | 2  | 0  | 6  | 15 |
| C男      | 36   | 35  | 36  | 37  | 29  | 36  | 37  | 36  | 7   | 8  | 10 | 5  | 2  |
| D男      | 28   | 24  | 29  | 31  | 22  | 30  | 21  | 27  | 2   | 1  | 9  | 4  | 2  |
| E男      | 12   | 9   | 8   | 8   | 15  | 11  | 8   | 8   | 14  | 2  | 6  | 1  | 0  |
| F男      | 12   | 22  | 10  | 18  | 35  | 21  | 20  | 25  | 4   | 4  | 6  | 3  | 4  |
| A子      | 36   | 35  | 36  | 35  | 33  | 37  | 35  | 35  | 10  | 9  | 7  | 2  | 0  |

\* 5年の欠席は、12月24日現在である。

や照れてしまう様子も見られたが、皆、明るい表情であった。

その後、代表の児童に皆の前で発表してもらった。自分のいいところを伝えてもらった児童に感想を聞くと、「うれしい。いい気持ちになった。」が多く、「あたたかい言葉かけ」をすることで、お互いの関係がよりよくなることが実感できたようである。



#### (4) 「共感」の授業実践

この授業では、相手の表情や声から気持ちを考えたり、同じように感じている自分の気持ちを「私も+自分の気持ちを表す言葉」で表現したり、自分の気持ちを表情で表すスキルを身につけることをねらいとした。

モデリングの教師二人のやり取りから、言葉だけでなく、目線や声の出し方や表情も自分の気持ちを伝える大事な要素であることを、子どもたちは理解したようである。前回の「あたたかい言葉かけ」の学習も活かされていたようである。

リハーサルでは、自分が選んだ場面で「私も+自分の気持ちを表す言葉」を使って、相手にかける言葉を書くことができた。その後、実際に2人組になって相手に言葉を使う場面では、棒読みになってしまい、表情や目線などは十分とは言えなかった。だが、共感的な言葉をかけてもらおうと、とてもいい気持ちになることは、理解できたようだ。

#### (5) 「やさしいたのみ方」「上手なことわり方」の授業実践

「あたたかい言葉かけ」と「共感」の配慮を高めるためのスキルを扱った授業後、SS尺度を測った。その結果、配慮の数値は上がったが、主張の数値は、下がってしまった。そこで、次は、主張を高めるスキルである「やさしいたのみ方」と「上手なことわり方」の授業実践を行った。

授業後の感想で、今までワークシートにほとんど自分の考えが書けなかったE男が、「上手なことわり方を使うと、どちらの心も傷つかないのでいいと思う。」と書いていた。まだ、実践してみようというところまではいかないが、関心をもったことがわかる。

4回の授業実践後、児童にSSTの感想を書かせた。「私は、こういう授業は好きです。もっと友達と仲良くできそうな気がしていいと思います。」「友達と上手に付き合うことは、少し難しいけど、この学習を活かして友達と付き合いたいと思いました。」などの感想が多かった。B男も、「この授業はこれから役に立つと思う。」と書いていた。こうした意欲が実践につながるよう、今後、支援を続けていきたい。

【資料1】SS尺度

〈ソーシャル・スキル尺度〉 ( ) 学校  
( ) 年 ( ) 組 氏名 ( )

次の質問に答えてください。あてはまる数字に○をつけてください。正しい答え・まちがった答えなどはありませんので、正直に答えてください。表の右側の白抜きの数に数字を、下の欄に合計点・平均点を書き入れてください。

| 質問項目                          | 1<br>配慮 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1<br>配慮 | 2<br>主張 |
|-------------------------------|---------|---|---|---|---|---------|---------|
| 1 友だちが元気がないときは、励まします。         | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 2 相手に聞こえる声で話します。              | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 3 何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。    | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 4 友だちに、自分の考えを言います。            | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 5 クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。 | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 6 人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。    | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 7 友だちがさみしそうときは、声をかけます。        | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 8 必要なときは、自分から先生に頼みます。         | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 9 話をするときは、相手の気持ちを考えます。        | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 10 わからないことがあるときは、先生に質問します。    | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 11 話し合いのときは、自分と違う考えを聞きます。     | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 12 グループの人たちの前で、自分の考えを言います。    | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 13 友だちの話は、ひやかさないで聞きます。        | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 14 自分だけ意見が違っても、自分の意見を言います。    | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 15 友だちが仲間に入りたそうにしていることに気付きます。 | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |
| 16 クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。     | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 |         |         |

|    |      |      |
|----|------|------|
|    | 1 配慮 | 2 主張 |
| 合計 |      |      |
| 平均 |      |      |

【資料2】

**「配慮」「主張」のバランスとプログラム**

| 「配慮」「主張」のバランス<br>(スキルの獲得状況) | 「配慮」の平均点が「主張」<br>の平均点より高い場合  | 「主張」の平均点が「配慮」<br>の平均点より高い場合   |                          |                       |
|-----------------------------|--|---|--------------------------|-----------------------|
| 予想されるクラスの<br>雰囲気            | ・おだやか<br>・あたたかい<br>・おとなしい など   | ・明るい<br>・積極的<br>・思いやりに欠ける など  |                          |                       |
| 目指すクラス                      | ・明るいクラス<br>・積極的なクラス など   | ・落ち着いたクラス<br>・思いやりのあるクラス など   |                          |                       |
| プログラムの選び方<br>のポイント          | 「主張」を高めるプログラム<br>このクラスは「配慮」の方が高い<br>ため、バランスをよくするため、<br>「主張」を高めるはたらきかけをする。  | 「配慮」を高めるプログラム<br>このクラスは「主張」の方が高い<br>ため、バランスをよくするため、<br>「配慮」を高めるはたらきかけをする。   |                          |                       |
| 実施するのがよいと<br>考えられるプログラム     | あいさつ   |   |                          |                       |
|                             | 1段階  | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">・自己紹介<br/>・質問</td> <td style="width: 50%;">・上手な聞き方<br/>・あたたかい言葉かけ</td> </tr> </table> | ・自己紹介<br>・質問             | ・上手な聞き方<br>・あたたかい言葉かけ |
|                             | ・自己紹介<br>・質問   | ・上手な聞き方<br>・あたたかい言葉かけ   |                          |                       |
|                             | 2段階  | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">・仲間の入り方<br/>・やさしい頼み方</td> <td style="width: 50%;">・仲間の話し方</td> </tr> </table>         | ・仲間の入り方<br>・やさしい頼み方      | ・仲間の話し方               |
| ・仲間の入り方<br>・やさしい頼み方         | ・仲間の話し方  |   |                          |                       |
| 3段階                         | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">・上手な断り方<br/>・自分を大切にする方法</td> <td style="width: 50%;">・共感(気持ちをわかって<br/>働きかける方法)</td> </tr> </table> | ・上手な断り方<br>・自分を大切にする方法  | ・共感(気持ちをわかって<br>働きかける方法) |                       |
| ・上手な断り方<br>・自分を大切にする方法      | ・共感(気持ちをわかって<br>働きかける方法)   |   |                          |                       |
| トラブルの解決策                    |  |   |                          |                       |



【ソーシャル・スキル・トレーニング あたたかい言葉かけ】

1 プログラム名「あたたかい言葉かけ」

2 指導のねらい

友達などに対して、あたたかい言葉かけができると、相手の気持ちをよくして、人間関係を深めることができる。ここでは、自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるかに気づかせ「ほめる」「励ます」「心配する」「感謝する」などのやさしい言葉かけが状況に応じて使えるような力を身につけさせたい。

3 獲得目標とするスキル

①相手に体を向け、きちんと見て、笑顔で相手に聞こえる声で言葉をかける。

②自分の気持ちを表す言葉を入れてあたたかい言葉かけをする。

4 展開

| 場面        | 活動内容   | 指導上の留意点  |
|-----------|--|--|
| インストラクション | <p>1. 約束を知る。</p> <p>2. 本時のねらいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの女の子の気持ちを想像する。</li> <li>男の子がかけた言葉を考える。</li> <li>「あたたかい言葉かけ」を学習することを知らせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「ふざけない・はずかしがらない」を提示する。</li> <li>2人の女の子の表情から、男の子がどんな言葉をかけたのか考え、ワークシートに記入させる。</li> <li>かけた言葉によって、相手の気持ちがちがうことを確かめられるようにする。</li> <li>どんな言葉が「あたたかい言葉」なのか、問題意識を持たせるようにする。</li> </ul>   |
| モデリング     | <p>3. 「あたたかい言葉かけ」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の表情から①、②のどちらが良かったか考える。</li> <li>②のどんな所が良かったか、発表する。</li> <li>「あたたかい言葉かけ」のポイントを知る。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>「すごいね」という気持ちで相手をほめたり、「ありがとう」と感謝したりする言葉が「あたたかい言葉」であると伝える。</li> <li>絵が得意なT2をT1がほめる場面             <ul style="list-style-type: none"> <li>①「絵、上手だね。」離れた所から、小さい声で。</li> <li>②「絵、上手だね。いつもすごいなって思ってるよ。」近くから目を見て、大きな声で笑顔で言う。</li> </ul> </li> <li>言葉だけでなく「相手に近づく」「相手をきちんと見る」「聞こえる声で言う」「笑顔で言う」などの非言語面にも目を向けさせる。</li> <li>「相手の様子＋自分の気持ちを表す言葉」も言えるとよいことを助言する。</li> </ul> |
| リハールサル    | <p>4. 「あたたかい言葉かけ」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いいところさがしカード」にあたたかい言葉を書いて隣の人にプレゼントする。</li> <li>グループの中で、全員でカードを回し、「あたたかい言葉かけ」をする。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>ポイントは、意識できるように板書しておく。</li> <li>カードに書いてから、ポイントをおさえて言葉かけをするようにする。</li> <li>よい言葉かけができていない児童に発表させ、言われた児童の感想を聞き、参考にさせる。</li> <li>よい言葉かけができていない児童に発表させ、いろいろな「あたたかい言葉かけ」があることに気づかせる。</li> </ul>  |

【ソーシャル・スキル・トレーニング 共感】

1 プログラム名「共感」

2 指導のねらい

友達とのコミュニケーションが上手にとれないために、人間関係が希薄になることが指摘されている。児童にとって、友達が自分の気持ちを分かってくれると心が安らぐものである。ここでは、相手の気持ちを知り、相手の立場に立って考えることを通して「共感すること」を学び、他者と共に生き、他者を大切にす気持ちや態度を身につけさせたい。

3 獲得目標とするスキル

- ①相手の表情や声から、気持ちを考える。
- ②同じように感じている自分の気持ちに気づく。
- ③「私も＋自分の気持ちを表す言葉」で、自分の気持ちを表現する。
- ④自分の気持ちを表情で表す。

4 展開

| 場面                              | 活動内容  | 指導上の留意点  |
|---------------------------------|---|--|
| イン<br>スト<br>ラク<br>ショ<br>ン       | 1. 約束を知る。<br>2. 本時のねらいを知る。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「笑わない・ふざけない・はずかしがらない」を提示する。</li> <li>・「共感」・・・友達と同じ気持ちになること</li> <li>・友達が泣いている→かわいそう。なくさめてあげたい。</li> <li>友達が笑っている→自分も楽しい。うれしい。</li> <li>・共感すると相手がうれしく感じ、安心できることを確認する。</li> </ul>  |
| モ<br>デ<br>リ<br>ン<br>グ           | 3. 相手の表情や声から、相手の気持ちを考える。<br><br>4. 共感したことの伝え方で、適切な方法を考える。<br>・①～③それぞれを聞いて、どんな感じがしたかワークシートに書き、どれが一番良かったか、考える。<br>・①と②は、どんな所がよくなかったか、③は、どんな所がよかったか、発表する。<br><br>・「私も＋自分の気持ちを表す言葉」を使うと共感していることがよく伝わることを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・T2 がさまざまな表情をはっきり分かるように演じ、どんな気持ちでいるか考えさせる。 ◇表情 ◇目 ◇口</li> <li>・初めて二重とびができた場面<br/>喜んでいるT2 それに対してT1は・・・<br/>①「どうしたの？ふーん、そうなんだ。」そっぽを向いて<br/>②「よかったね。いっぱい練習していたものね。」声はやさしいが、表情は今一歩。<br/>③「うわー、やったね。頑張って練習したかいがあったね。私もうれしくなるよ。今度一緒にやろう。」表情たっぷり。</li> <li>・言葉だけでなく「体を向ける。目を見る。笑顔で言う。」も大切なことに気づかせる。</li> <li>・大切なペットのハムスターが死んでしまった場面<br/>悲しそうなT2 それに対してT1は・・・<br/>①「残念だったね。」<br/>②「残念だったね。かわいがっていたのにね。私も悲しくなっちゃう。」</li> <li>・どちらが、共感しているように感じるか考えさせ、「私も＋自分の気持ちを表す言葉」を使う良さに気付かせる。</li> <li>・「私も＋自分の気持ちを表す言葉」を使って、共感したことを伝える練習をするよう、指示する。</li> </ul> |
| リ<br>ハ<br>ー<br>サ<br>ル           | 5. 様々な場面で、どのような言葉かけをするか考える。<br>・ワークシートに言葉を書く。<br>・班で実際に言ってみる。<br>・発表する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私も＋自分の気持ちを表す言葉」を使うよう助言する。</li> <li>・自分ができそうな場面を選ぶ。</li> <li>・言われてどんな気持ちになるか考えさせる。</li> <li>・うまく伝えられた児童を指名し、全体に紹介する。</li> </ul>  |
| フ<br>ィ<br>ー<br>ド<br>バ<br>ッ<br>ク | 6. まとめ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントを確認する。</li> <li>・いろいろな場面で、共感したことが相手に伝えられるよう、意欲を高める。</li> </ul>   |

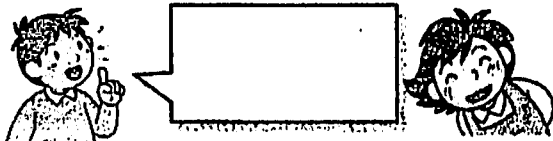
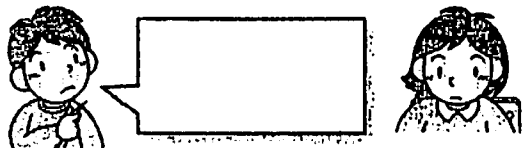
「あたたかい言葉かけ」ワークシート

月 日 ( )

名前 \_\_\_\_\_

あたたかい言葉かけをしよう!

◆ 男の子は、女の子にどんな言葉かけをしているでしょう。下の言葉を分けてみましょう。



- ① 「君の絵は、とてもいいねだね。すごいね。」
- ② 「おそいなあ。まだ終わらないの? おいて行っちゃうからね!」
- ③ 「さっきは計算のやり方を教えてくれてありがとう。」
- ④ 「リコーダーが上手になったね。今度の音楽発表会、がんばろうね。」
- ⑤ 「また、わすれ物したの?」
- ⑥ 「この漢字、まちがっているよ。こんなものわからないの。」
- ⑦ 「バトミクスがだいぶうまくなったから、いっしょに練習に行こう。」

◆ 友達の良いところを見つけ、カードに書いてプレゼントしましょう。

|            |     |
|------------|-----|
|            | さんへ |
| あなたのいいところは |     |
| わたしは       |     |
|            | より  |

「共感」ワークシート

月 日 ( )

名前 \_\_\_\_\_

友達と同じ気持ちであることを伝えよう! (共感)

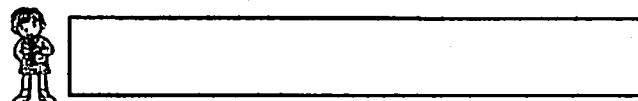
- (1) 相手をよく観察しよう。  
表しようは?                      目は?                      口は?
- (2) 初めて二重とびができた場面で、どの方法が一番共感していることが伝わるかな? どんな感じがしたか、書いてみよう。  
①はどうだったかな?

②は、どうだったかな?

③はどうだったかな?

- (3) 「私も+自分の気持ちを表す言葉」を使ってどんな想像をかけるか、書いてみよう。

● リコーダーがぶけるようになった。



● 一生けん命世話をしていたメダカが卵からかえった。



● リレーの試合で負けてしまった。



## 2 小学校第6学年におけるSSTの授業実践

### (1) アセスメント (実態把握)

7月6日に、1回目のアセスメントを行い、児童のスキルの獲得状況を把握した。アセスメントには、実践例1同様、「指導プログラムの開発」で紹介されている「ソーシャルスキル尺度」を使用した。

その結果、学級全体のSS尺度の平均は、配慮が30.7、主張が28.3となり、配慮の方が平均点が高いことが分かった。

次に実践例1と同様に、SS尺度が低い、または配慮と主張のバランスに偏りのある児童や欠席数が多い児童をターゲット児童として選び出した。

### (2) 実践したスキルと変容

配慮の平均点が高いという学級全体の様子から、実践例1同様、「指導プログラムの開発」で紹介されている『「配慮」「主張」のバランスとプログラム』を参考に10月28日に「やさしい頼み方」のスキルを授業で実施した。その後、11月25日に事前に行ったものと同じSS尺度を実施し、変容を追った。以下はその結果である。なお、ターゲット児童は上述の(1)のアセスメントで選んだ児童である。

| ターゲット<br>児童 | SS尺度 |     |     |     | 欠席数    |        |        |        |        |        |   |
|-------------|------|-----|-----|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|
|             | 配慮   |     | 主張  |     | 1<br>年 | 2<br>年 | 3<br>年 | 4<br>年 | 5<br>年 | 6<br>年 |   |
|             | 1回目  | 2回目 | 1回目 | 2回目 |        |        |        |        |        |        |   |
| A男          | 29   | 31  | 32  | 32  | 5      | 4      | 5      | 4      | 6      | 9      | 6 |
| B男          | 29   | 32  | 35  | 40  | 8      | 8      | 14     | 5      | 3      | 5      | 5 |
| C男          | 23   | 25  | 33  | 35  | 12     | 12     | 6      | 5      | 6      | 6      | 6 |
| D男          | 16   | 27  | 14  | 23  | 1      | 2      | 0      | 0      | 3      | 1      | 1 |
| A子          | 32   | 31  | 33  | 34  | 6      | 3      | 5      | 5      | 10     | 0      | 0 |
| B子          | 36   | 35  | 23  | 27  | 2      | 4      | 10     | 5      | 5      | 1      | 1 |
| C子          | 33   | 27  | 16  | 9   | 0      | 4      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0 |

\*6年の欠席数は、12月24日現在である。

A男、B男、C男、A子、B子は欠席数が多いため、ターゲット児童に選んだ。SS尺度を見ると得点も高く、A男を除く児童は、2回目の尺度で「主張」のポイントが上がっている。このことは「主張」を高めるプログラムを実施した効果があったと言える。また、「配慮」のポイントもA子を除くすべての児童で上がっており、「やさしい頼み方」のSSTの実践が、ねらいとしていた「主張」のみならず、「配慮」にもよい影響を与えたことがわかる。

一方、D男のように1回目と2回目の数値の差が極端に大きく気持の波を感じさせる児童や、C子のように数値が大幅に下がった児童もいた。実際にこの2名は、教室の中での表情が乏しかったり、友達との関係に課題を抱えているので、今後も配慮が必要である。このように、実践例1同様、SSTの実践がすぐにすべての児童に対して効果を上げるのは難しい。しかしながら、それをきっかけにして日常の場面で繰り返し指導したり、意識

させる活動を生活の中に組み込んだりすることで、効果を高めていくことができる有効な教育手段だと考えられる。

また今回、欠席数の洗い出しやアセスメント、SSTの実践を通して、意外な児童が過去に問題や悩みを抱えていたり、配慮や支援を必要としていたりすることに気づき、支援することができた。それがなによりの成果であると言えよう。

### (3)「やさしい頼み方」の授業実践

この授業では、生活の中で自分が誰かの助けを必要とした時に、相手の状況や気持ちを思いやりながら、自分の願いを穏やかな言葉ではっきりと伝えることで、人間関係を円滑に進めていくスキルを身につけさせることをねらいとした。

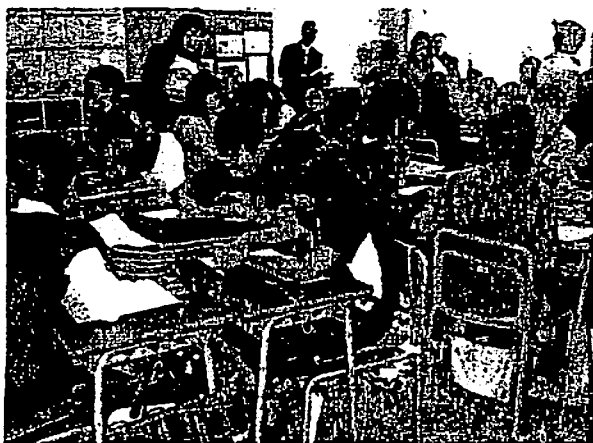
モデリングは、隣のクラスの担任に協力してもらい、頼む役と頼まれる役を分担して行った。6年生は普段から学年単位で活動



することが多いため、児童にとって最も接する機会が多い二人の教師によるモデリングに大いに関心を示し、集中して見ていたようである。二人のやりとりから「やさしい頼み方」のポイントを言語面、非言語面から発見し、押さえることができた。

リハーサルでは、教師が設定した6つの場面から1つを選んで、頼み方のセリフを考えさせた。モデリングで押さえたポイントを明示したため、ほぼ全ての児童がそれを参考にして自分のセリフをスムーズに書くことができていた。そしてグループの中で、頼む役・頼まれる役・評価する役に分かれ、練習を行った。また練習は同じ役割で2回行い、1回目後に評価を伝えてから2回目を行うことで、より上手に頼むことができるよう工夫した。

児童は慣れないセリフにやや照れながらも、真剣に取り組んでいた。ほとんどの児童が棒読みになったり硬い表情で話したりする中で、相手の目を見たり笑顔で話したりという非言語面を意識して頼み事をすることができた児童も数名いた。上手だった児童に皆の前で発表してもらうことで、他の児童のお手本とすることができた。



【ソーシャル・スキル・トレーニング やさしい頼み方】

1 プログラム名「やさしい頼み方」

2 指導のねらい

人は互いに助け合いながら社会をつくり、人間関係を築いていく。しかし、自分から頼む働きかけができなければ、助けてほしいことに気付いてもらえない。そのため、相手の状況や気持ちを大切にしながら、自分の気持ちや考えを穏やかな言葉ではっきり伝えることが大切である。この活動を通して「やさしい頼み方」を学び、集団生活の中で人間関係を円滑に進めていく手段を身につけさせたい。

3 獲得目標とするスキル

①相手の状況や気持ちを大切にしながら、自分の願いを伝える頼み方を身につける。

②頼むときの理由や何をしてほしいのかをはっきりと相手に伝える力を身につける。

4 展開

| 場面        | 活動内容  | 指導上の留意点  |
|-----------|---|--|
| インスタレーション | 1. 約束を知る。<br><br>2. 本時のねらいを知る。<br>・場面設定を知り、自分はどんな頼み方をするか、ワークシートに書く。<br>・「やさしい頼み方」を学習することを覚える。 | ・「ふざけない・はずかしがらない」を提示する。<br><br>・「掃除の時間に一緒に机を運んでほしい時、何と言って頼んだら、引き受けてくれるだろうか。」という場面を設定する。<br>・どのような頼み方をするか、ワークシートに書かせ、問題意識を持たせるようにする。  |
| モデリング     | 3. 教師のモデリングを見る。<br><br>・T2の感想を聞く。<br>・<パターン2>のどんな所がよかったか、発表する。<br><br>4. 「やさしい頼み方」のポイントを知る。   | ・T1が頼む役、T2が頼まれる役をする。<br><パターン1><br>「運んでよ!」のように一方的な頼み方をする。<br><パターン2><br>「ちょっといい? 重くて一人じゃ運べないから、一緒に運んでくれない?」「ありがとう!」と、笑顔でやさしく頼む。<br><br>・T2の感想を聞いて、参考にさせる。<br><br>・児童の発表は、①相手の都合を聞く。②頼む理由を言う。③何をしてほしいのかをはっきり言う。④頼みを聞き入れてもらった時の気持ちを伝える。⑤笑顔でやさしく言う。などのポイントに整理する。<br>・言葉だけでなく、表情など非言語面にも目を向けさせる。<br>・①～⑤以外でも児童から出たら、取り上げる。<br>・ポイントは、意識できるように板書しておく。 |
| リハーサル     | 5. 実際の場面で「やさしい頼み方」の練習をする。<br><br>・ワークシートに頼みごとのセリフを考えて書く。<br>・グループで練習をする。<br><br>・代表の児童が発表する。  | ・4人のグループを作り、それぞれ場面を選ばせる。<br>・ワークシートには、机の時の例を書いておき、参考にさせる。<br>・輪番で頼む役、頼まれる役、評価する役を行わせる。<br>・ワークシートに、板書したポイントを書かせ、評価する役の児童が、評価を記入できるようにする。<br>・頼む役の子1人につき3分間時間をとり、頼まれる役と評価する役の児童が感想やアドバイスを伝え、改善して2回目を行えるようにする。<br>・練習なので、頼まれる役の児童は必ず引き受けるように助言する。<br>・練習は、T1の「始め」「終わり」の合図で行うようにする。<br>・よい頼み方ができている児童を選んで発表させ、みんなの参考になるようにする。                       |
| フィードバック   | 6. まとめをする。<br><br>・頼みごとを引き受けてもらった感想を発表する。<br>・「やさしい頼み方」のポイントをまとめる。                            | ・引き受けてもらうとうれしいという気持ちにふれ、「ありがとう」というお礼を言う大切さにも目を向けさせたい。<br>・「やさしい頼み方」のポイントを再確認し、お互いに頼みごとを聞き合って助け合うことで、人間関係がより高まっていくことにふれ、これからの生活の中で、今日の学習を活かしていくように意欲を高める。   |

「やさしい頼み方」ワークシート

※リハーサル「頼み事」の場面設定  
(以下の中から1つを各自に選ばせる。)

- ・パソコンの使い方を教えてほしい。
- ・二重とびのコツを教えてほしい。
- ・跳び箱をいっしょに運んでほしい。
- ・教科書を忘れてしまったので、見せてほしい。
- ・休み時間の委員会当番を代わってほしい。
- ・自分の分の給食を配ぜんしてほしい。



◆ このみごとを選びましょう。

教科書を忘れたので見せてほしい。

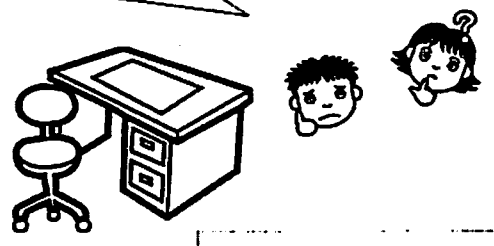
◆ やさしい頼み方を覚えてみましょう。

| ポイント               | 自分のみごとのセリフ   | (他) 返事        |
|--------------------|--------------|---------------|
| 1 相手の都合を聞く。        | ごめん…         | ちょっといい？       |
| 2 たのむ理由を言う。        | 教科書をたれちゃったから | 早くて一人じゃ運べないから |
| 3 何をしてほしいのかはっきり言う。 | いっしょに見せてください | 一緒に運んでください    |
| 4 感謝の気持ちを伝える。      | ありがとう        | あつた！          |
| 表情                 | 笑顔           | 笑顔            |

月 日 ( ) 年 月 日

**やさしい頼み方をしよう!**

◆ 何と申って、そのんどういでしょう。



◆ このみごとを選びましょう。

◆ やさしい頼み方を覚えてみましょう。

| ポイント | 自分のみごとのセリフ | (他) 返事        |
|------|------------|---------------|
| 1    |            | ちょっといい？       |
| 2    |            | 早くて一人じゃ運べないから |
| 3    |            | 一緒に運んでください    |
| 4    |            | あつた！          |

評価カード

| ポイント               | 評価                       |                          |
|--------------------|--------------------------|--------------------------|
|                    | 1回目                      | 2回目                      |
| 1 相手の都合を聞く。        | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2 たのむ理由を言う。        | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3 何をしてほしいのかはっきり言う。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4 感謝の気持ちを伝える。      | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

児童の感想より

みんなとやめたので楽しかったです。セリフがやさしいセリフの人が多かったです。

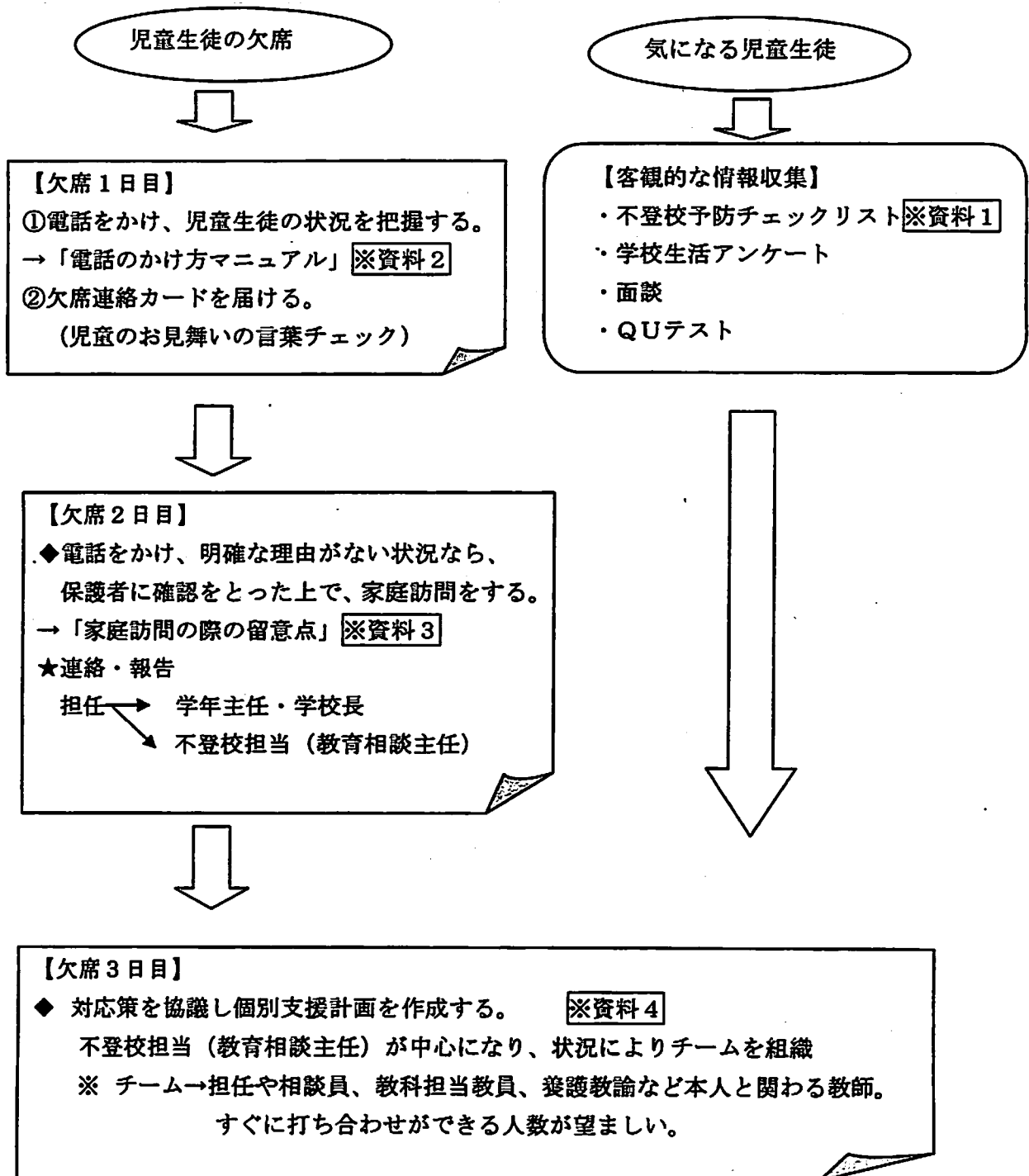
たのみ方を工夫することで友情が深まり、もっとみんなと仲よくなれると思いました。

おいて運ばれた時に、すくはすかしたけど、せいたのみ方がわかって、よかったです。これからいろいろな時に使えたいなと思います。

たのみ事をするときおと工夫するだけであつたのきもちが変わるということになりました。

## 2 不登校対応マニュアルの作成

### (1) 不登校早期対応の流れの設定



#### ★不登校担当者が利用できるアセスメント

- ①不登校タイプ別対応の手引き（埼玉県立総合教育センター2004）
- ②ダイアグラム（「不登校ゼロの達成」小野昌彦著 2006）



### 資料1【不登校予防のためのチェックリスト】

※Aの項目は1つ、Bの項目は2つ以上チェックのついた児童生徒は、対策を検討する。

| チェック | 項目                                    |
|------|---------------------------------------|
| A    | 1. 最近1ヶ月で欠席が3日以上あった。                  |
|      | 2. 最近1ヶ月で休みの翌日に欠席が2回以上あった。            |
|      | 3. 特定の教科のある日に欠席・遅刻・早退が増えた。            |
|      | 4. 明確な理由のない欠席があった。                    |
| B    | 5. 一度欠席すると数日続くようになった。                 |
|      | 6. 朝起きられないで、遅刻が増えた。                   |
|      | 7. 朝の健康観察で、体調不良を頻繁に言うようになった。          |
|      | 8. 表情が暗くなった。                          |
|      | 9. 保健室の出入りが増えた。                       |
|      | 10. 通学班で登校できない日があった。(小学校)             |
|      | 11. 部活動の欠席が目立つようになった。(中学校)            |
|      | 12. (保護者からの情報で) 登校前に体調不良を訴えるようになった。   |
|      | 13. (保護者からの情報で)「学校に行きたくない。」ということがあった。 |

### 資料2

【欠席1日目の電話のかけ方】※共感的に話をする。

【保護者と】①身体症状を尋ねる。「〇〇さんの具合はいかがですか。」

- ②発熱の有無 「熱はでましたか。」
- ③食事の状況 「食事はとれているのでしょうか。」
- ④通院の状況 「病院には行かれましたか。」
- ⑤一日の様子 「今日は、どのように過ごしましたか。」
- ⑥明日の連絡 「連絡帳は届いていますか。明日は・・・」
- ⑦気になること 「最近お子さんのことで気になることはありませんか？  
学校に楽しく登校していますか？」

⑧本人と話ができるか「〇〇さんとお話ができますか。」(できるようなら・・・)

【本人と】 「大丈夫ですか。みんな心配していたよ。今日は〇〇をしたよ。

(明日登校できそうなら) 明日学校で、待っているね。」

### 資料3

【家庭訪問の際の留意点】※電話で事前に家庭訪問することを確認して

★保護者の話を共感的に聞きながら、児童生徒についての情報収集をする。

- ・すぐに登校させようとするのではなく、情報収集が目的である。
- ・保護者の話を「最後までじっくり聞く」姿勢で訪問する。
- ・生活の様子もさりげなく観察する。

★配布物は、丁寧に整えて届ける。→心配りが信頼をうむ。

★児童生徒本人と楽しいコミュニケーションをとるネタ(本人の好きな話題)を用意していく。→本人と教師が会話のできる関係になることが目標となる。

★学校の様子を伝える。

#### 資料4 【個別支援計画カード】

| 年 組 児童生徒名  | 担任名         |
|--|-------------|
| 記入日 年 月 日  | 欠席し始めた日 月 日 |
| ①児童生徒の状況   |             |
| <div style="border: 1px solid black; height: 20px;"></div> |             |
| ②これまでの対応   |             |
| <div style="border: 1px solid black; height: 20px;"></div> |             |
| ③本人の今できていることと当面の目標   |             |
| 今できていること（現状）   | 当面の目標（対応者）  |
|  |             |
| ④学校が考える今後の方針と保護者の要望  |             |
| 今後の方針  | 保護者の要望      |
|  |             |
| ⑤困っていること   |             |
| 本人に対して   | 保護者に対して     |
|  |             |
| その他  |             |
| <div style="border: 1px solid black; height: 20px;"></div> |             |

### V 研究のまとめと今後の課題

#### 1 SSTの授業研究について

前年度の研究ではソーシャル・スキルの実践方法を学ぶことができ、学校不適應の未然防止の一つとして特に小学校において有効であるとわかった。今年度は担任が「すぐに実践できるソーシャル・スキル・トレーニング」をキーワードとし、授業研究に取り組んだ。

SSTに取り組んだ成果として、次のようなことが挙げられる。

まず、スキルの獲得が必要なターゲット児童を絞る過程において、より明確な児童の実態把握ができたことである。SS尺度の測定及び分析や欠席数の洗い出しをすると、教師の観察だけでは見過ごしがちな児童の様々な課題や、不登校相当の経験に気づくことができる。アセスメントの実施及び分析から授業実践、事後検証まで基本的な手順でSSTに取り組むことを通して、教師は配慮や支援を要する学校不適應の児童を早期に発見し、対応することができると考えられる。

また、ターゲット児童に合わせたSSTの標的スキルを授業で行ったので、SS尺度のポイントが上がったり、バランスが良くなったりしたターゲット児童もみられた。今回実践を行った2つの学級では、実施後のSS尺度のクラス平均が、配慮・主張ともにポイントが上昇した。これは、SSTを実施することにより、学級不適應の児童はもちろんのこと、他の児童もスキルアップできることを表している。中にはモデリングを見て、言語行

動だけでなく、表情や声のトーンなどの非言語活動も意識してリハーサルを行うことができた児童も多く、SSTを通して、円滑な人間関係づくりのために重要な非言語活動を意識させることもできた。

こうしたことから、SSTの実践は、学級内での人間関係を円滑にし、よりよい学級経営、つまり「居心地のよい学級」をつくるために有効であると言える。そしてこのことは不登校やいじめの未然防止に役立つものと考えられる。

しかし、SSTの授業で児童が学習したスキルをいかに日常の生活で活用し、更にスキルアップを図るかが課題である。教師は学習したスキルを日ごろから意識して指導したり、適切な評価をしたりすることが求められる。また、定期的なアセスメントを行い、児童や学級の実態にあったスキルを取り上げ、意図的、計画的にSSTを実施及び検証することが効果につながる。

## 2 不登校対応マニュアルの作成について

上記SST授業の実践を行うにあって、アセスメントの1つとして、研究員が担任する学級の児童生徒の小1から現在までの欠席日数を洗い出してみた。その中で、不登校相当の経験がある児童生徒に共通する傾向が浮き彫りになってきた。その傾向をわかりやすくまとめたものが「不登校未然防止のためのチェックリスト」である。教育相談部会や学年会等で気になる児童生徒に活用し、対策を検討することにより不登校予防につながると考える。

どの段階で不登校と判断するかは非常に難しい問題である。小林・小野(2005)によると児童生徒の欠席に敏感になるだけで、不登校の数は2割程度減っている、という実践報告がある。児童生徒の欠席理由に関わらず、直接家庭と連絡を取ることは、早期対応のひとつとして重要である。

このマニュアルの活用にあたっては、教育相談部を中心に充分検討し、児童生徒や家庭の実態、担任との関係等、各学校の実情に合ったものを作り上げていく必要がある。校内だけにとどまらず、小中連携の一環として活用できるようになれば、「不登校未然防止」に効果を発揮するものと考えられる。

### <参考・引用文献>

- 小林正幸・相川充編著「ソーシャル・スキル教育で子どもが変わる」図書文化社(1999)
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター「中1不登校生徒調査(中間報告)[平成14年12月実施分]—不登校の未然防止に取り組むために—」(2003)
- 埼玉県総合教育センター「ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)に関する指導プログラムの開発」(2005)
- 明石市教育委員会「不登校予防のための早期対応マニュアル(あかし)」(2009年度版)
- 新潟県教育委員会「中1ギャップ解消調査研究事業報告書(平成15・16年度実施)」(2005)
- 佐藤正二・相川充編「実践ソーシャルスキル教育」図書文化社(2005)
- 小林正幸・小野雅彦著「教師のための不登校サポートマニュアル」明治図書(2005)
- 文部科学省「不登校の対応に当たって」(2003)
- 小野雅彦著「不登校ゼロの達成」(2006)